

沖縄県豊見城市の調査

上杉 和央

京都府立大学文学部歴史学科3・4回生向け開講科目「地理学実習Ⅰ」では、現地調査を実施しているが、沖縄県内の市町村を1つ選択することを恒例としている。沖縄県を選択しているのは、歴史や文化が大きく異なる地域の調査を経験することで、沖縄の特性を知ると同時に、京都や地元の特性についても理解が深まることが期待されるからである。

また、実習期間について、6月23日を含んだ5泊6日を設定することを常としている。6月23日は「慰霊の日」であり、沖縄戦の終了が記念された休日となっている。その日には沖縄県各地で慰霊行事や平和に関する催しがなされるが、地域と戦争との関わりを学生一人一人に感じてもらうよう、個人の調査とは別に、班を組んで慰霊祭や平和行事への参加や調査を課している。

1. 今年度の調査概要

調査地は受講生のうち、3回生が相談して決めることにしている。今年度は検討の結果、豊見城市が調査地として選ばれた。また、調査には「地理学実習」参加者に加え、大学院科目「地理学演習Ⅰ」の参加者、および教員数名も参加した。

調査概要は次の通りである。

調査日：平成26年6月19日～24日

調査地：豊見城市

調査員：上杉和央・上田純一・川瀬貴也・藤本仁文（教員）

加藤叡・高橋幸千（3回生）

平野友梨・松尾春那・宮下遥（4回生）

稲穂将士・山崎祐紀子（修士1回生）

川口成人（博士後期1回生）

長谷川奨悟（学振PD）

このうち、3回生は個人調査と慰霊碑・慰霊祭調査を担当し、4回生以上は沖縄の文化遺産調査および慰霊碑・慰霊祭調査を担当する。なお、これらの調査成果は京都府立大学文学部歴史学科文化遺産学コース（上杉研究室）『豊見城市』（2015）として刊行した。

2. 個人調査

加藤叡は豊見城市域のハーリーの特殊性に関心を抱き、字豊見城を中心にハーリーの歴史的展開と現在の取り組みについて、聞き取り調査と現地調査を実施した。

高橋幸千は村獅子について関心を抱き、豊見城市域に分布する村獅子について、現地調査と

聞き取り調査を実施した。

3. 慰霊祭調査

豊見城市域は、納骨堂の整理が進んだ地域であり、慰霊碑が集落内に残されているところは少ない。6月23日に慰霊祭が実施されているのは字豊見城のみであることが事前調査で判明した。そこで、字豊見城の了解の元、慰霊祭への参加とその前後での聞き取り調査を実施した。

さらに、今年度については、地縁にもとづく慰霊碑・慰霊祭ではなく、社会組織や同窓会組織による慰霊碑・慰霊祭の調査についても実施することにした。範囲についても豊見城市域およびその周辺というように、少し広範囲にみることにした。

取り上げたのは、白梅之塔、梯梧之塔、黒百合の塔、戦没新聞人の碑、小桜之塔である。



豊見城市歴史民俗展示室の見学（平成26年6月20日）



字豊見城の慰霊祭（平成26年6月23日）